

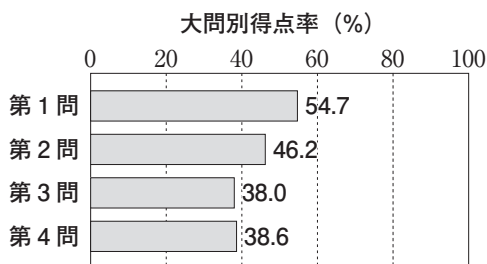
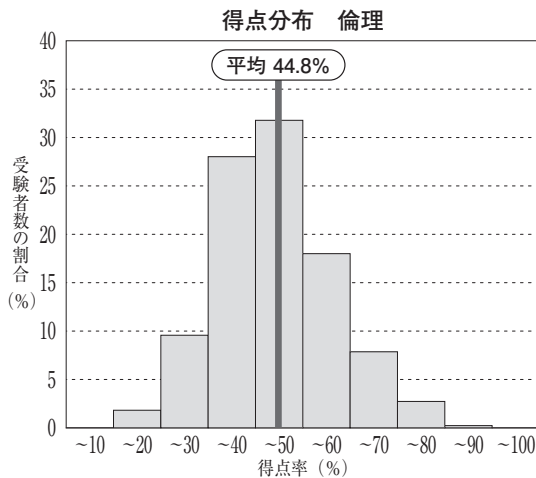
倫 理

夏休みは倫理の学習を進める大きなチャンス

I. 全体講評

6月実施の「全国統一高校生テスト 倫理」の受験学年の平均点は44.8点。前回4月の「センター試験本番レベル模試」の結果から大きな変化はなかった。この結果は、受験者の学習が前回4月の模試の時点からそれほど進んでいないことを意味している。ただし、この時期に倫理の学習を完成させている受験者はそれほど多くないであろうから、この平均点はやむを得ないとも言える。そこで、まもなく始まる夏休みの期間を利用して、一通り倫理の学習を終え、次回以降は自信をもって模試に臨めるようになってほしい。

現状では、受験者は、**模試の結果に一喜一憂する必要はない**。自分が間違えた問題を直視し、率直に反省し、それを足がかりに、夏休みに何をすべきかについての的確に把握することが大切である。



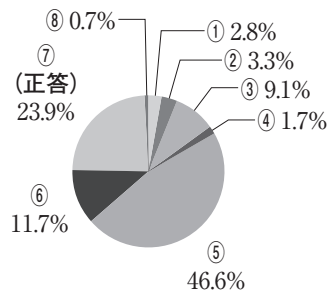
II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

実存主義は頻出分野

第1問の得点率は54.7%。現在の日本の状況に多少関心があれば答えられる問6 [6]や、グラフ読み取りの問7 [7]、資料文読解の問8 [8]のような、知識をそれほど必要としない問題の正答率は高かった。一方、問1 [1]、問3 [3]、問4 [4]の3問は正答率が20%台であったが、これらは正誤判断のポイントが細かかったり、ほとんどの教科書に載っていない事項が出題されていたりする問題であるから、この機会に頭に入れておけばよいだろう。ただし、実存主義が出題された問9 [9]の正答率が30%台というのはいただけない。実存主義の哲学者は毎年一人が出題されていると言ってよく、頻出分野である。**実存主義は夏休み中に必ず押さえておこう。**

問4 [4]



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

⑤を選んだ受験者が半数近くとなった。アのルソーとウのレヴィンは正しく判断できたが、イのG. H. ミードの「一般化された他者」の概念理解ができていなかった。教科書で扱っていないこともあるが、これを期に資料集や用語集などで確認しよう。

第2問 源流思想分野

源流思想分野の理解を深めることが、日本思想や西洋近現代思想の理解の助けになる。

第2問の得点率は46.2%。正答率が目立って高い問題はなかったが、著しく低い問題はあった。問1 [11]であるが、この問題の正答率は10.9%。この模試全体で最も正答率が低いという結果になってしまった。選択率の分布を見ると、誤答の②を選択した受験者が半数以上いることから、多くの受験者はイとウの文章の正誤は判断できたが、アで迷ってしまったことが分かる。もう一度、孔子についての解説を読み、用語の意味をしっかりと把握すること。また、問3 [13]は誤答の①の選択率が正答率とほぼ同じになっている。①の徳治主義は真人を出題する際に用いられる典型的な誤文である。真人について出題された際に徳治主義の文章を見たら、直ちに誤文と判断できる力をつけてほしい。第2問の源流思想分野は日本思想や西洋近現代思想につながる大切な分野であるので、夏の間に学習を積み重ねよう。

第3問 日本思想分野

表面的な理解では正解できない。

第3問の得点率は38.0%。この大問も正答率が目立って高い問題はなかった。目立ったのは、誤りの選択肢が正答の選択肢を大きく上回って選ばれていた二つの問題である。一つは井原西鶴の作品が問われた問4 [23]で、近松門左衛門の作品である①を選択した受験者が半数近くいた。このような誤りは井原西鶴の思想を理解していれば避けられるので、用語集も駆使して江戸時代の町人文化の理解を深めたい。もう一つは民俗学などが問われた問8 [27]で、柳田国男についての①を選択した受験者が半数近くであった。「文献の研究に基づいて」が正誤判断のポイントだというのは細かいと思うかもしれないが、柳田国男が歴史を記した書物には表れない人々の伝承や習俗を重視したというのは、柳田の思想の大きな特徴である。また、近代の思想家を出題した問5 [24]は正答率が17.9%であった。近代の思想家は近年の本試験でも頻出なので、高得点をねらうために思想の概要を理解しておきたい。

第4問 西洋近現代思想分野

まずは学習にとりかかってほしい。

第4問の得点率は38.6%。正答率10%台の問題が3問あり、この分野の学習がいかに進んでいないかがよく分かる結果となった。西洋近現代思想分野は扱われる哲学者や思想家が多く、しかも、キリスト教と理性への深い信頼を背景にしているため、日本人にはなじみのない難解な思想も多い。早めに学習にとりかかろう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆各分野の大枠をつかむ。

人名や用語を頭のなかで繰り返すなどしてただ覚えようとしても、多くの人は覚えることはできないだろう。まずは、各分野の大きな流れ、大枠をつかむことである。例えば、源流思想分野の古代ギリシア思想ならば、神話→自然哲学者→ソフィスト→ソクラテス→プラトン→アリストテレス→ヘレニズムの思想の順に進めていくのである。そして、夏休みの間に教科書・参考書を通読し、用語集を何度も開き、人名や用語の知識を確実にしていこう。

◆選択肢が多くても慌てない。

倫理では6択や8択の問題があり、どれを選べばよいのかと迷わされるかもしれない。しかし、選択肢が多くても、3つの文の判定ならば、一つ一つの選択肢の判定をすればよいのであるから、行うべき作業は4択の問題とそれほど変わらない。穴埋めであれば、多くの問題では一つの空欄に入る候補は2つしかない(2択である)。落ち着いて一つ一つ対処していくことが大切である。

◆次回の模試に向けて。

今回の「第3回8月センター試験本番レベル模試」は8月の終わりに実施されるので、夏休みの学習の成果を測るよい機会である。そこで、模試の前に、教科書や参考書を通読を終えるなど、学習をある程度進めた段階で、すでに手元にストックされている3回分(センター試験本番レベル模試2回分と全国統一高校生テスト)の問題を解き直してほしい。本番と同一レベル・同一内容・同一形式の問題と、要点を的確に押さえた解答解説は、他にない教材である。存分に使いこなしてほしい。